

武田竜真

TATSUMA TAKEDA

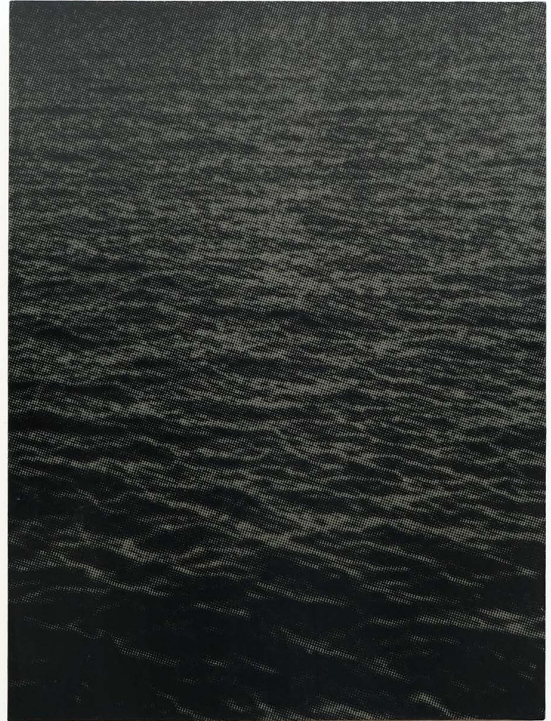


" The Eye of a Needle " サイズ可変 2021年

木製クレート、発泡スチロール、ビデオ

撮影：渡邊修

画像提供：金沢21世紀美術館



" Halftone #29 " 40 x 30 cm 2023年

木製パネルに漆

隠れキリシタンの地の1つである熊本県の天草諸島で生まれ育った背景から、宗教や文化の移動と変化、またそれらを運ぶ／受け入れる人の営みに関心を寄せる。人類学的視点を介在させ、歴史や美術史への再解釈を行いながらさまざまなアプローチで作品を制作し、さらにその歴史との対話によって新たな芸術的意味の付加を試みる。絵画、立体、インスタレーション、映像といった様々なメディアを用い、現代の文化的、社会的、政治的、宗教的、歴史的アイデンティティを反映させることで、今日の多様な世界が内包する共通言語／差異を探求している。

1988年熊本県生まれ。現在ベルリン在住。2013年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。2017年ドレスデン美術大学ディプロム課程修了、2020年同大学マイスターシューラー課程修了。2018年に吉野石膏美術振興財団在外研修員としてドイツに滞在。2021年にポーラ美術振興財団在外研修員としてオランダに滞在。主な展覧会に「Be Water」(Galerie Eigen + Art, ベルリン/ドイツ, 2023)、「Utsusu - Chronicle Vol.2」(Villa Heike, ベルリン/ドイツ, 2023)、「Our Attitudes」(熊本市現代美術館、熊本、2022)、「道と根 Routes/Roots」(TOKAS本郷、東京、2021)、「コレクション展 Inner Cosmology」(金沢21世紀美術館、石川、2021)等。

<https://www.tatsuma-takeda.com/>